

賃金はなぜ上がらないのか

大阪府立大学経済学部

野田知彦

京都大学大学院経済学研究科博士課程

岡本弥

【要旨】

本稿では、1990-2002 年度にわたる上場企業のパネルデータを用い、近年景気回復下において賃金の上昇を阻害している企業レベルの要因を、賃金が経営者と従業員との交渉を通じて決定されるというレント・シェアリングモデルに基づいて検証をおこなった。

その結果、賃金抑制の背景として 1997 年末の金融危機発生以降に外国人投資家や金融機関などの株主の行動に変化が生じている可能性があることが明らかとなった。まず外国人投資家は、余剰資金の有効活用の必要性を積極的に唱え、企業に増配などを強く求めはじめた。その結果、従業員への分配が減り、賃金上昇の抑制につながったと推測される。また金融機関については、倒産への危機感などから、資本市場からの調達可能な優良企業を中心に貸出金の回収を行い、不良債権の処理原資に充当したため、顧客企業の財務状況が悪化し、賃金の上昇が据え置かれた可能性が示唆される。

